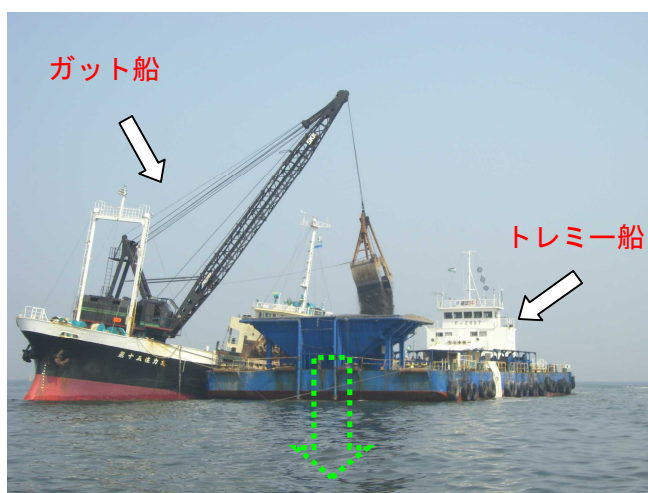
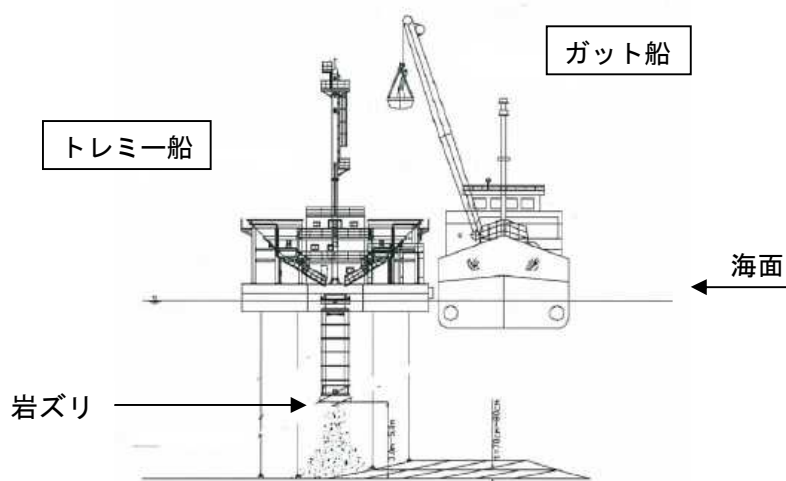


埋立護岸の造成

ゴールデンウィークに入り、
たくさんの旅客を乗せた航空機が飛び交う羽田の空の下、
今日もD滑走路建設現場では着々と工事が進められています。

今年3月に地盤改良工事を終えたD滑走路埋立部では、現在、
護岸造成のための築堤材の投入に着手しています。

護岸造成工事では、材料の岩ズリ（※）を投入する際、
海中の濁りの拡散を防止するため、海面からの直接投入ではなく、
濁りを極力発生させない作業船である**トレミー船**から
海底に伸ばした管を通して、海底に投入します。



ガット船とトレミー船の連携プレーで海底に岩ズリを投入！

※岩ズリ…岩を破碎（0～300mm程度）したもので、これを海底に投入し護岸の築堤材や埋立柱とする。



トレミー船に岩ズリを投入するガット船。大迫力！

海中の濁り状況について、水質もこまめにチェックしながら工事を進めます。



水質（濁度）チェック中！



多項目水質計（現地観測機器）を
海中に沈めて調査

埋立部の他にも、
栈橋部や連絡誘導路部のジャケット据付、杭打設など、
たくさんの作業船が日々作業を進めています。



航空機の運行が少ない夜間は、作業の進め時。

365日24時間施工の羽田の現場では、
作業船たちは今夜も休まず働き続けます。